

平成28年 舞鶴市議会意見交換会報告書

総務文教班

開催日時	平成28年7月19日(火)		
開催場所	舞鶴市役所 本館4階 議員協議会室		
テーマ	子どもたちの夢達成に向けたサポートについて		
対象団体等	舞鶴市PTA連絡協議会	オブザーバー	城北・加佐中学校 校長
参加人数	8名	傍聴者数	19名
出席議員 (役割分担)	岸田 圭一郎 (座長)	後野 和史 (司会)	高橋 秀策 (資料準備)
	西村 正之 (資料準備)	杉島 久敏 (記録)	眞下 隆史 (報告)
内 容	【概要】		
	議長の挨拶に続き、座長から意見交換会開催の趣旨及び議会報告を含めた挨拶。引き続き、ご出席いただいた「舞鶴市PTA連絡協議会」8名、オブザーバーとしてご参加いただいた「城北及び加佐中学校の校長」からの自己紹介の後、平成28年度の教育費に係る主な事業や、昨年実施した意見交換会の内容等を資料とし、テーマに沿って意見交換を行った。		
	【意見・要望等】		
	(委員) 昨年は、市内7中学校14名の生徒代表と「将来の自分の夢」や「どんな舞鶴市を望むのか」などについて意見交換を行った中で、「将来、人のために頑張りたい」と答えた生徒が多かった。昨年の意見交換会で述べられた意見や思いに、委員からは「親御さんは立派に子育てをさせていただいている」と感想があり、子どもたちの夢が実現するようそのサポート体制について、意見を伺った。		
	(PTA) 「子どもたちに地元企業の仕事内容を知ってもらうため、舞鶴市内の企業から学校に訪問していただき、就労者の率直な意見に触れ合う機会があってもよいのではないか」「地元企業から話を聞く機会を小学生からつくってほしい」との意見。また、職場体験については、「実際に職場を体験することは、子どもの進路に大きな影響を与えると思うので、職場体験の選択肢を拡大してほしい」との意見。また、「子どもたちは世の中にどんな仕事があるのか、目に見える職業しか分かっていない。早くから職場体験を通して多くの職種を知ることがよい」との意見の一方で、「小学生では遊び感覚の域を超えないので、就職とは何かを考え始める中学生から職場体験を実施する方が妥当だと考える」との意見があった。		
	(委員) 職場体験に関わって、小学生と中学生に、今後、「職業」への考え方をどのように持たせるのかを検証していきたい。		
	(委員) 「自分の子どもにどんな職業に就きたいのか、会話をしたり、また、アドバイスなどされているのか」を伺った。		
	(PTA) 「それなりに会話はしている」「まったく話さない」と両方の意見が出された。「就職先を選ぶ側より就職先から選ばれる側になってほしい」「職業に関する情報はメディアから知ることが多く、将来何になるにしても勉強をしっかりするようアドバイスしている」「親の思いや対応として、地元で働きたくても、子どもが目標としている職業があるのか心配である」「親の立場から情報を与え、いつでも相談に乗れる状況をつくっている」「子どもも将来のことを語らないし、親としても聞かない。ただ、持続してやれる力をつけるため、クラブ活動だけは続けるよう指導している」「市長が講話された知識や技術は、身を守る		

<p>鎧である。一つのことを目指し、手に入れようとすれば競争になることを理解させること、また、子どもに勉強の必要性を自ら感じ取らせ、親はそのサポートに徹している」などの意見があった。</p>
<p>(PTA) 小中一貫教育を始めるにあたり、小・中学校の教員間の交流が十分にあるのか疑問に思う。小・中学校の教員間の考え方にギャップがあるようにみえる。</p>
<p>(オブザーバー) 小中一貫教育は、小・中学校間の単なる連携ではなく、もうワンステップ上を目指している。小学校と中学校には違いがあるが、計画的にどのようにすれば子どもたちのためになるのかを全体的に考え、子どもにとってマイナスとなる部分は取り除き、プラスとなる部分は継続又は新たに受け入れていくこととしている。</p>
<p>(委員) 子どもたちの学力向上について、学校や先生に望むことを伺う。</p>
<p>(PTA) 「学校の先生は大変ご苦労だと感じている。どの子どもの学力に合わせて授業を進めてよいのか悩まれているのではないか」「学校は『ホームワーク』の利用を促すが、2割の子どもが利用せず、親も関心がないように思う」「生涯学習ということで大人も勉強していく環境の取り組みが必要ではないかと思う」「夢を実現するために学力は必要であることから、先生によつての温度差をなくしていただきたい」「クラブ活動に関して遠征費などの支援があればありがたい。自治会との連携により資源回収による収入を利用するなどのしくみはできないか」「中学生になると進学に対する情報収集や学力向上のために塾に通わせているが、家計への負担が大きい。塾に通っている子どもとそうでない子どもとの学力の差が生じないよう、退職された先生に教えていただくなど、放課後授業の提案をしてほしい」などの意見があった。</p>
<p>(PTA) 中学生の不登校に対する取り組みや、行政側の対応についてどう感じておられるのかを問う。</p>
<p>(委員) 「学校側は一生懸命に取り組んでいただいている。小中一貫教育による他市の事例を見ると、不登校の解消につながっている。期待してもらいたい。いじめや不登校に関しては舞鶴市としても徐々に予算を増額し、取り組んでいる。有効に予算が執行されていることを理解していただきたい」と伝えた。</p>
<p>《総評》 本年5月に総務文教委員会で、施設統合型、施設分離型の小中一貫教育施設の視察をさせていただき、「子どもの思いをしっかりと受け止め、より良い方向へ進めていかなければならない」と改めて感じたことを踏まえて、参加者に対して、今後も「親として子どもをしっかりと見つめていただくよう」お願いをさせていただいた。舞鶴市としては、小中一貫教育は、あくまでも先生のためにあるものでなく、子どものためにあるものだとの考えで、小・中学校間の連携をしっかりとしていただき、改善点を見出して、魅力ある学校づくりを目指し、より良いものにしていただきたい。不登校の解消に関しても「安定した友達関係を早期からつくり上げる」とした狙いを持たせたものが、まさに小中一貫教育の目的でもあるので、その解消に向けて取り組んでいきたい。</p>

舞鶴市議会議長 桐野正明様

平成28年7月29日

舞鶴市議会意見交換会実施要領第9項(1)により、報告書を提出します。

総務文教班 座長 岸田圭一郎